

(9) 養育の問題状況（子どもへの愛着形成の困難）

①養育の問題状況（子どもへの愛着形成の困難）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、子どもへの愛着形成の困難に関する養育の問題状況は、子どもへの愛着形成の困難に関する養育の問題状況が「有り」である割合は22.0%であり、「無し」は53.8%であった。「人的障害傾向」、「抑うつ傾向」、「アルコール乱用」よりも「有り」である回答は多数であり、この問題が乳幼児の入所に大きく関連している可能性が確認できた。

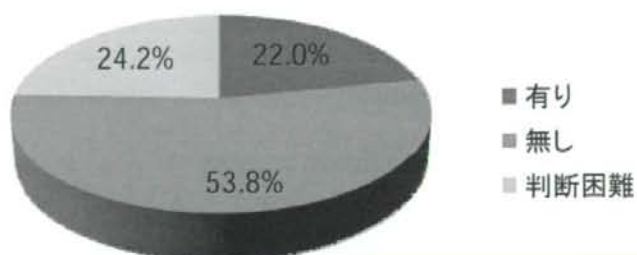


図 7-13 養育の問題状況（子どもへの愛着形成の困難） n=2,876

表 7- 51 養育の問題状況（子どもへの愛着形成の困難） n=2,876

子どもへの愛着形成の困難	回答数	割合
有り	633	22.0%
無し	1548	53.8%
判断困難	695	24.2%
回答数合計	2876	

②子どもへの愛着形成の困難による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、子どもへの愛着形成の困難による養育の問題状況別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、養育の問題状況が「無し」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が29.6%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が31.8%であるのに対して、養育の問題状況が「有り」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が4.4%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が21.7%とかなり少ない傾向にあり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が65.9%にのぼった。

この養育問題の有無によって「家庭復帰の見込み」が25.2ポイントも異なることは注目に値する。子どもへの愛着形成の困難による養育の問題状況が家庭復帰の見通しに大きく影響を与えている可能性がある。

表 7- 52 子どもへの愛着形成の困難による養育の困難度別にみた家庭復帰の見通し
n=2,868

		養育の問題状況		
		有り	無し	判断困難
回答数		71	2116	670
家庭復帰の見通し	家庭復帰の見込み有り	4.4%	29.6%	7.8%
	当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	21.7%	31.8%	18.9%
	家庭復帰困難又は見込み無し	65.9%	32.6%	62.6%
	判断困難	7.9%	6.0%	10.7%
$\chi^2=412.13***$		100%	100%	100%

(10) 養育の困難度別にみた家庭復帰の見通しについての考察

養育の困難度別にみた家庭復帰の見通しでは、困難度が高まると家庭復帰の見通しが悪くなる傾向がみられた。「家庭復帰困難又は見込み無し」の割合が最も高い困難事項は「知的障害」によって「疾患・障害のため養育できない状態」である場合であり76.2%であった。続いて「精神障害」によって「疾患・障害のため養育できない状態」である場合が66.3%、「子どもへの愛着形成の困難」が「有り」の場合が65.9%などであった。一方、「抑うつ傾向」が「有り」の場合は45.7%であり、「無し」の場合の41.1%と比較してそれほど大差はなかった。

3. 情緒・行動上の問題からみた乳幼児

(1) 情緒・行動上の問題（自閉的傾向）

①情緒・行動上の問題（自閉的傾向）

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向に関する情緒・行動上の問題状況は、自閉的傾向に関する情緒・行動上の問題状況について、「疑いなし」は85.7%であったが、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」を合わせると6.5%となった。

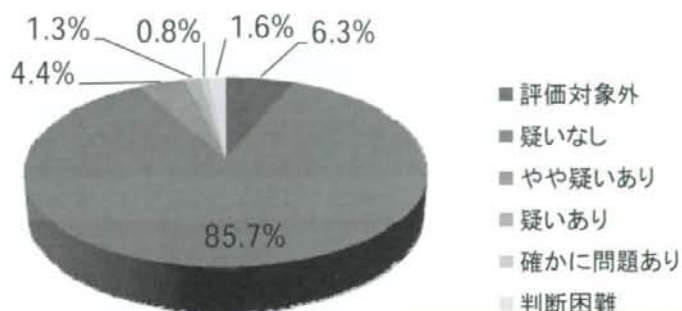


図 7-14 情緒・行動上の問題（自閉的傾向） n=2,938

表 7- 53 情緒・行動上の問題（自閉的傾向） n=2,938

自閉的傾向	回答数	割合
評価対象外	184	6.3%
疑いなし	2517	85.7%
やや疑いあり	128	4.4%
疑いあり	38	1.3%
確かに問題あり	24	0.8%
判断困難	47	1.6%
回答数合計	2938	

②自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が19.1%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が27.7%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が16.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が0.0%と少なくなり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が75.0%にのぼった。

「家庭復帰困難又は見込み無し」の数値などから、自閉的傾向による情緒・行動上の問題が深刻になると家庭復帰の見通しが悪くなる可能性があると思われる。

表 7-54 自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,921

	情緒・行動上の問題					
	評価対象外 回答数	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
家庭復帰の見込み有り	184	2501	128	38	24	46
家庭復帰の見通し						
家庭復帰の見込み有り		20.7%	19.1%	11.7%	10.5%	2.2%
当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中		14.1%	27.7%	28.9%	15.8%	17.4%
家庭復帰困難又は見込み無し		57.6%	45.5%	50.8%	68.4%	71.7%
判断困難		7.6%	7.8%	8.6%	5.3%	8.7%
$\chi^2=53.71***$		100%	100%	100%	100%	100%

③自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、ケアの負担感が「変わらない」が50.9%であり、「かなり重いケア負担」が18.2%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「変わらない」が9.1%と少なく、「かなり重いケア負担」が45.5%と多かった。

自閉的傾向による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの負担感が重くなる可能性が大きいといえる。

表 7- 55 自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=815

	回答数	情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
	55	651	51	23	11	24	
ケアの負担感							
変わらない	50.9%	63.1%	37.3%	17.4%	9.1%	20.8%	
やや重いケア負担	30.9%	28.9%	43.1%	39.1%	45.5%	29.2%	
かなり重いケア負担	18.2%	8.0%	19.6%	43.5%	45.5%	50.0%	
$\chi^2=222.06***$	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

④自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、ケアの適合状況が「適している」が86.0%であり、「適していない」が14.0%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「適している」が45.8%と少なく、「適していない」が54.2%と多かった。

自閉的傾向による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあるといえる。

表 7- 56 自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2,903

	回答数	情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
	181	2487	127	38	24	46	
ケアの適合状況							
適している	76.8%	86.0%	68.5%	42.1%	45.8%	47.8%	
適していない	23.2%	14.0%	31.5%	57.9%	54.2%	52.2%	
$\chi^2=149.05***$	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

⑤自閉的傾向による情緒・行動上の問題別にみた「適していない」と回答した場合の「適している他の施設」

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自閉的傾向による情緒・行動上の問題があり「適していない」と回答した場合の（主観的な）「適している他の施設」は、知的障害児施設が9件、家庭が1件などとなった。「疑いあり」の場合も、知的障害児施設が12件と多かった。

表 7- 57 「適していない」と回答した場合の「適している他の施設」（自閉的傾向） n=489

		適している他の施設	回答数
評価対象外		児童養護施設	11
		知的障害児施設	2
		病院	1
		家庭	9
		里親の家	7
		その他	12
	疑いあり		児童養護施設
		情緒障害児短期施設	1
		児童自立支援施設	2
		母子生活支援施設	3
		他の乳児院	6
		知的障害児施設	24
		病院	2
		家庭	52
		親戚の家	6
		里親の家	123
		その他	49
情緒・行動上の問題 やや疑いあり		児童養護施設	8
		情緒障害児短期施設	1
		知的障害児施設	5
		家庭	6
		里親の家	11
		その他	9
	疑いあり		児童養護施設
		情緒障害児短期施設	1
		知的障害児施設	12
		家庭	3
		里親の家	1
確かに問題あり		その他	4
		知的障害児施設	9
		家庭	1
判断困難		その他	3
		児童養護施設	1
		他の乳児院	1
		知的障害児施設	2
		病院	2
		里親の家	1
	その他	17	

(2) 情緒・行動上の問題（養育者との関係性）

①情緒・行動上の問題（養育者との関係性）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、養育者との関係性に関する情緒・行動上の問題状況は、養育者との関係性に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多かったが、「疑いなし」は45.7%であり、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」を合わせると4.5%と少なかった。

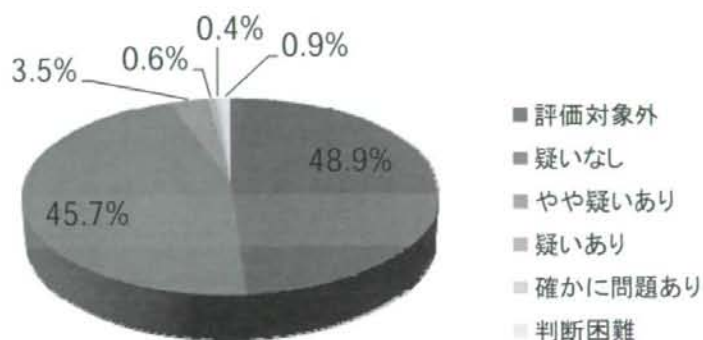


図 7-15 情緒・行動上の問題（養育者との関係性） n=2,795

表 7- 58 情緒・行動上の問題（養育者との関係性） n=2,795

養育者との関係性	回答数	割合
評価対象外	1367	48.9%
疑いなし	1276	45.7%
やや疑いあり	97	3.5%
疑いあり	17	0.6%
確かに問題あり	12	0.4%
判断困難	26	0.9%
回答数合計	2795	

②養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が20.9%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が25.8%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が16.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が16.7%と少なくなり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が66.7%にのぼった。

「家庭復帰困難又は見込み無し」の数値などから、養育者との関係性による情緒・行動上の問題が深刻になると家庭復帰の見通しが悪くなる可能性があるかと推察された。

表7-59 養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,778

	評価対象外 回答数	情緒・行動上の問題					判断困難
		疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり		
		1360	1267	97	17	12	
家庭復帰の見込み有り	16.3%	20.9%	11.3%	11.8%	16.7%	12.0%	
家庭復帰の見通し 当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	27.4%	25.8%	26.8%	23.5%	16.7%	24.0%	
家庭復帰困難又は見込み無し	46.8%	47.2%	52.6%	64.7%	66.7%	60.0%	
判断困難	9.5%	6.1%	9.3%	0.0%	0.0%	4.0%	
$\chi^2=53.71***$	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

③養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が58.3%、「かなり重いケア負担」が7.8%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、回答数は少ないが、「変わらない」が0.0%であり、「かなり重いケア負担」が80.0%であった。

表7-60 養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=789

	評価対象外 回答数	情緒・行動上の問題					判断困難
		疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり		
		319	391	48	14	5	
ケアの負担感 変わらない	66.1%	58.3%	29.2%	50.0%	0.0%	25.0%	
やや重いケア負担	26.0%	31.5%	50.0%	21.4%	20.0%	16.7%	
かなり重いケア負担	7.8%	10.2%	20.8%	28.6%	80.0%	58.3%	
$\chi^2=199.16***$	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

④養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が78.8%、「適していない」が21.2%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「適している」が50.0%、「適していない」が50.0%となった。

養育者との関係性による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあると思われる。

表 7- 61 養育者との関係性による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2,762

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		1345	1266	97	17	12	25
ケアの適合状況	適している	90.6%	78.8%	59.8%	52.9%	50.0%	40.0%
	適していない	9.4%	21.2%	40.2%	47.1%	50.0%	60.0%
$\chi^2=161.66***$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

(3) 情緒・行動上の問題（注意欠陥・多動傾向）

①情緒・行動上の問題（注意欠陥・多動傾向）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、注意欠陥・多動傾向に関する情緒・行動上の問題状況は、注意欠陥・多動傾向に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多かったが、「疑いなし」は39.9%であり、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」を合わせると8.1%とやや多かった。

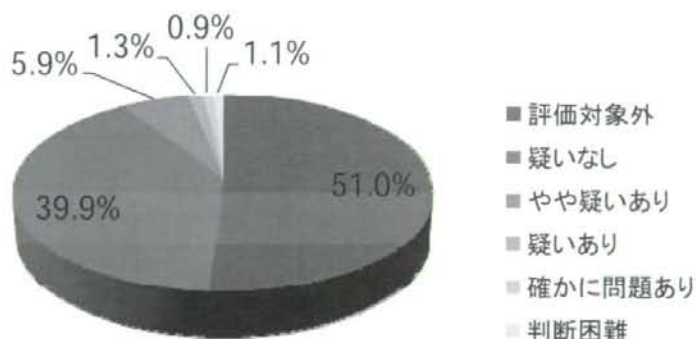


図 7-16 情緒・行動上の問題（注意欠陥・多動傾向） n=2,792

表 7-62 情緒・行動上の問題（注意欠陥・多動傾向） n=2,792

注意欠陥・多動傾向	回答数	割合
評価対象外	1425	51.0%
疑いなし	1113	39.9%
やや疑いあり	165	5.9%
疑いあり	35	1.3%
確かに問題あり	24	0.9%
判断困難	30	1.1%
回答数合計	2792	

②注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が21.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が27.4%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が8.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が12.5%と少なくなり、「家庭復帰困難又は見込み無し」が79.2%にのぼった。

「家庭復帰困難又は見込み無し」の数値などから、注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題が深刻になると家庭復帰の見通しが悪くなる可能性があると思われる。

表 7- 63 注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し
n=2,778

	評価対象 外 回答数	情緒・行動上の問題					判断困難 29
		疑いなし 1104	やや疑い あり 165	疑いあり 35	確かに問 題あり 24	判断困難	
家庭復帰の見込み有り	16.8%	21.3%	13.3%	8.6%	8.3%	13.8%	
当面の家庭復帰の見込みはない が、復帰に向けて調整中	27.0%	27.4%	21.2%	17.1%	12.5%	17.2%	
家庭復帰 の見通し 家庭復帰困難又は見込み無し	47.0%	45.1%	58.8%	65.7%	79.2%	62.1%	
判断困難	9.2%	6.3%	6.7%	8.6%	0.0%	6.9%	
$\chi^2=42.576***$	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

③注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が60.6%、「かなり重いケア負担」が7.9%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「変わらない」が0.0%であり、「かなり重いケア負担」が71.4%と多かった。

注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの負担感が重くなる可能性があると思われる。

表 7- 64 注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=790

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		332	340	67	23	14	14
	変わらない	66.9%	60.6%	37.3%	26.1%	0.0%	21.4%
ケアの負担感	やや重いケア負担	25.0%	31.5%	47.8%	34.8%	28.6%	21.4%
	かなり重いケア負担	8.1%	7.9%	14.9%	39.1%	71.4%	57.1%
$\chi^2=303.71***$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

④注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が79.3%、「適していない」が20.7%であるのに対し、当該情緒・行動上の問題が「確かに問題あり」の場合、「適している」が37.5%であり、「適していない」が62.5%であった。

注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあると思われる。

表 7- 65 注意欠陥・多動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=790

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		345	397	20	7	0	16
	変わらない	65.2%	56.9%	30.0%	14.3%	-	18.8%
ケアの負担感	やや重いケア負担	25.8%	33.5%	25.0%	14.3%	-	43.8%
	かなり重いケア負担	9.0%	9.6%	45.0%	71.4%	-	37.5%
$\chi^2=214.99***$		100%	100%	100%	100%	-	100%

(4) 情緒・行動上の問題（反社会的行動傾向）

①情緒・行動上の問題（反社会的行動傾向）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、反社会的行動傾向に関する情緒・行動上の問題状況は、反社会的行動傾向に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多く半数を超えたが、「疑いなし」も44.2%であり、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」は合計しても1.6%と少なかった。

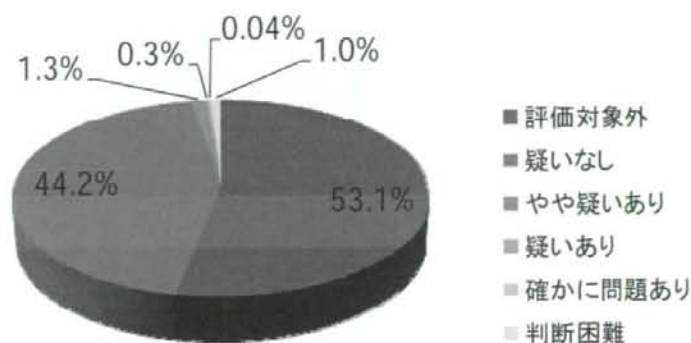


図 7-17 情緒・行動上の問題（反社会的行動傾向） n=2,782

表 7-66 情緒・行動上の問題（反社会的行動傾向） n=2,782

反社会的行動傾向	回答数	割合
評価対象外	1478	53.1%
疑いなし	1229	44.2%
やや疑いあり	37	1.3%
疑いあり	9	0.3%
確かに問題あり	1	0.04%
判断困難	28	1.0%
回答数合計	2782	

②反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が20.2%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が25.7%であった。「確かに問題あり」の回答は1件、「疑いあり」の回答は9件しかなかった。

表 7- 67 反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し
n=2,766

	評価対象外 回答数	情緒・行動上の問題					判断困難
		疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難	
家庭復帰の見込み有り	1471	1222	36	9	1	27	
家庭復帰の見通し							
家庭復帰の見込み有り	16.7%	20.2%	13.9%	0.0%	100.0%	11.1%	
当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	27.0%	25.7%	38.9%	33.3%	0.0%	14.8%	
家庭復帰困難又は見込み無し	47.2%	47.9%	38.9%	66.7%	0.0%	66.7%	
判断困難	9.1%	6.2%	8.3%	0.0%	0.0%	7.4%	
$\chi^2=27.12^{**}$	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

③反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が56.9%、「疑いあり」が14.3%であった。

表 7- 68 反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=785

	評価対象外 回答数	情緒・行動上の問題					判断困難
		疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難	
ケアの負担感	345	397	20	7	0	16	
変わらない	65.2%	56.9%	30.0%	14.3%	-	18.8%	
やや重いケア負担	25.8%	33.5%	25.0%	14.3%	-	43.8%	
かなり重いケア負担	9.0%	9.6%	45.0%	71.4%	-	37.5%	
$\chi^2=214.99^{***}$	100%	100%	100%	100%	-	100%	

④反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が77.5%、「適していない」が22.5%であった。「確かに問題あり」は1件、「疑いあり」は9件しか該当がなかった。

表 7- 69 反社会的行動傾向による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2,749

		情緒・行動上の問題					判断困難
		評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
回答数		1456	1220	36	9	1	27
ケアの適合状況	適している	89.8%	77.5%	55.6%	44.4%	100.0%	33.3%
	適していない	10.2%	22.5%	44.4%	55.6%	0.0%	66.7%
$\chi^2=151.62^{***}$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

(5) 情緒・行動上の問題（自傷行為）

①情緒・行動上の問題（自傷行為）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自傷行為に関する情緒・行動上の問題状況は、自傷行為に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多く半数を超えたが、「疑いなし」も43.0%であり、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」は合計すると3.7%であった。

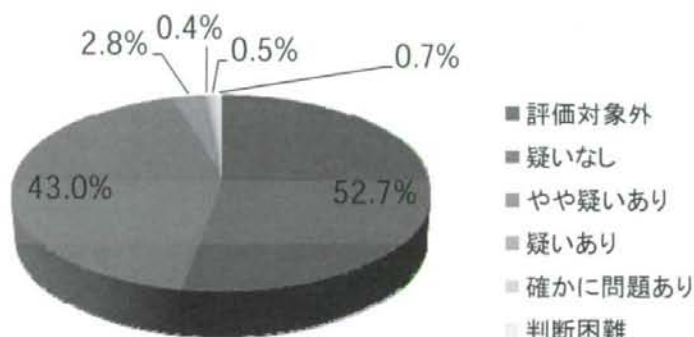


図 7-18 情緒・行動上の問題（自傷行為） n=2,766

表 7-70 情緒・行動上の問題（自傷行為） n=2,766

自傷行為	回答数	割合
評価対象外	1458	52.7%
疑いなし	1188	43.0%
やや疑いあり	77	2.8%
疑いあり	11	0.4%
確かに問題あり	13	0.5%
判断困難	19	0.7%
回答数合計	2766	

②自傷行為による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自傷行為による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し（割合）は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が19.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が26.7%であった。

一方、「確かに問題あり」の場合は、回答数が少数であるが、「家庭復帰の見込み有り」が7.7%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が30.8%であった。

この項目において、情緒行動上の問題と家庭復帰の見通しは、それほど関連性は見られないように思われる。

表 7-71 自傷行為による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,750

	評価対象外 回答数	情緒・行動上の問題				判断困難
		疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
家庭復帰の見込み有り	1451	16.9%	19.7%	18.4%	9.1%	27.8%
家庭復帰の見通し 当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	1181	26.9%	26.2%	23.7%	18.2%	16.7%
家庭復帰困難又は見込み無し	76	47.2%	47.8%	48.7%	72.7%	55.6%
判断困難	11	9.0%	6.2%	9.2%	0.0%	0.0%
$\chi^2=18.25$	13	100%	100%	100%	100%	100%

③自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が55.4%、「かなり重いケア負担」が10.2%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、回答数が少数であるが、「変わらない」が0.0%、「かなり重いケア負担」が60.0%であった。

表 7-72 自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=2,750

	評価対象外 回答数	情緒・行動上の問題				判断困難
		疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	
変わらない	338	66.6%	55.4%	44.4%	42.9%	8.3%
ケアの負担感 やや重いケア負担	381	25.4%	34.4%	27.8%	28.6%	41.7%
かなり重いケア負担	36	8.0%	10.2%	27.8%	28.6%	50.0%
$\chi^2=159.98***$	7	100%	100%	100%	100%	100%

④自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「適している」が77.3%、「適していない」が22.7%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、「適している」が61.5%、「適していない」が38.5%であった。

自傷行為による情緒・行動上の問題が深刻になるとケアの適合状況が悪化する傾向にあると思われる。

表 7- 73 自傷行為による情緒・行動上の問題別にみたケアの適合状況 n=2,733

		情緒・行動上の問題					
		評価対象 外	疑いなし	やや疑い あり	疑いあり	確かに問 題あり	判断困難
回答数		1436	1178	77	11	13	18
ケアの適合 状況	適している	90.3%	77.3%	62.3%	63.6%	61.5%	16.7%
	適していない	9.7%	22.7%	37.7%	36.4%	38.5%	83.3%
$\chi^2=168.17***$		100%	100%	100%	100%	100%	100%

(6) 情緒・行動上の問題（排泄問題）

①情緒・行動上の問題（排泄問題）

全国調査で対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、排泄問題に関する情緒・行動上の問題状況は、排泄問題に関する情緒・行動上の問題状況について、この項目は「評価対象外」が多く大半であった、「やや疑いあり」、「疑いあり」、「確かに問題あり」は合計してもわずかで0.7%であった。

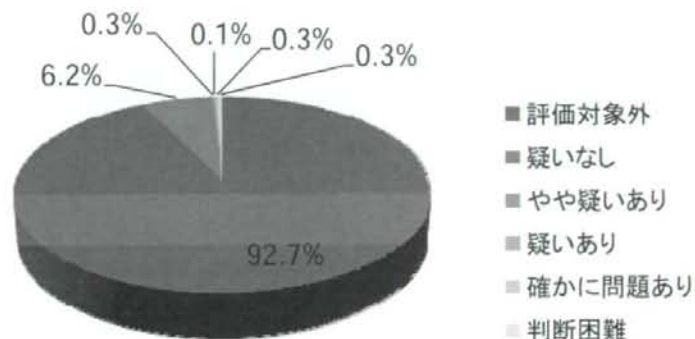


図 7-19 情緒・行動上の問題（排泄問題） n=2,675

表 7-74 情緒・行動上の問題（排泄問題） n=2,675

排泄問題	回答数	割合
評価対象外	2481	92.7%
疑いなし	167	6.2%
やや疑いあり	7	0.3%
疑いあり	3	0.1%
確かに問題あり	8	0.3%
判断困難	9	0.3%
回答数合計	2675	

②排泄問題による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、排泄問題による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し(割合)は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「家庭復帰の見込み有り」が25.3%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が33.1%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、回答数が少数であるが、「家庭復帰の見込み有り」が12.5%、「当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中」が62.5%であった。

回答数が少数であるが、排泄問題による情緒・行動上の問題が深刻なほど、家庭復帰の見通しが悪い傾向にあるように思える。

表 7-75 排泄問題による情緒・行動上の問題別にみた家庭復帰の見通し n=2,663

	情緒・行動上の問題					
	評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	2470	166	7	3	8
家庭復帰の見込み有り	17.6%	25.3%	28.6%	33.3%	12.5%	22.2%
当面の家庭復帰の見込みはないが、復帰に向けて調整中	26.3%	33.1%	0.0%	0.0%	12.5%	33.3%
家庭復帰困難又は見込み無し	48.1%	38.6%	57.1%	66.7%	62.5%	44.4%
判断困難	8.0%	3.0%	14.3%	0.0%	12.5%	0.0%
$\chi^2=22.55*$	100%	100%	100%	100%	100%	100%

③排泄問題による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感

対象となった乳幼児のうち欠損値を除く乳幼児について、排泄問題による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感は、当該情緒・行動上の問題が「疑いなし」の場合、「変わらない」が65.6%、「かなり重いケア負担」が14.1%であった。一方、「確かに問題あり」の場合は、回答数が少数であるが、「変わらない」が0.0%、「かなり重いケア負担」が40.0%であった。

表 7-76 排泄問題による情緒・行動上の問題別にみたケアの負担感 n=773

	情緒・行動上の問題					
	評価対象外	疑いなし	やや疑いあり	疑いあり	確かに問題あり	判断困難
	回答数	694	64	6	1	5
変わらない	59.8%	65.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
やや重いケア負担	29.8%	20.3%	100.0%	100.0%	60.0%	66.7%
かなり重いケア負担	10.4%	14.1%	0.0%	0.0%	40.0%	33.3%
$\chi^2=95.51***$	100%	100%	100%	100%	600%	100%